

平成14年度実施事業 詳細評価シート

担当部課	経済部農水産課	直通電話	72-3164	事業コード	501010401	課内	9	作成日	平成15年8月11日
		担当者	吉田 雅人	担当課長	吉田 公	担当部長	工藤 厚志		

1 事業のアウトライン

1) 事業名	石狩産米高品質化推進補助事業	開始年度	H11	終了年度	H16
		最近の事業内容見直し年度	H14		
2) 総合開発計画での事業体系	施策コード 5010104 大項目 / 小項目 / 細項目 農業、水産業の振興 / 農業の振興 / 主要農作物の生産振興				
3) 個別計画での位置付け	石狩市農業振興計画 3.「土地基盤の整備」、5.「コストの低減」、6.「付加価値の向上」				

2 事業の内容

1) 事業の目的 何のために	石狩産米の評価の向上
2) 目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	石狩産米がより美味しくなるようにする。 各農家が自分の水田の土の状態を知ったうえで、適切な肥料の施し方ができるようにする。
3) 事業の方法 どんな手段を講じるのか	次の事業を行う「Aいしかり」に対して、その事業経費の一部を補助する。 全水稲作付け水田を対象に、米の味の低下の原因となる土壌中の培養窒素量を継続的に分析し、これをもとに肥料の施し方の改善が必要な生産者に指導する。 肥料の施し方を改善した結果、土壌中の培養窒素量や米のタンパクが低下したかを検証し、各生産者に必要な改善策を分析指導する。 H14年度事業実績 分析点数 699点、対象面積 712ha、対象農家数 130戸
4) 14年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	従前は、米の高整粒化と良食味化の両方を目指し、土壌改良材の購入経費の一部を補助をしていたが、高整粒については、一定のレベルまで達成されたので、14年度からは美味しい米の生産に重点を置き取り組んだ。
5) 事業の背景・社会状況・他の類似事業など	近年全国的に米の消費量が減り、米の価格の低迷が続いている中、米産地として生き残るためには地区の土壌条件を十分踏まえた上で、品種選定や販売戦略(付加価値の狙いを良食味・高整粒・加工用への転換などのいずれに置くか)を検討をしなければならない。適地適作や売れる米づくりを推進するうえで水田土壌診断は欠かせないものとなっている。
6) 事業の立案や実施などへの市民参加	なし
7) 評価中間公表への市民意見	なし

3 事業に投入した行政資源

項目	H12	H13	H14	H15 予算	H14事業費の主な内訳	金額(千円)
1) 直接事業費(千円)	3,045	3,049	1,287	1,072	石狩産米高品質化推進事業補助金	1,240
2) その他の間接経費(千円)					補助金交付事務に係る消耗品等の事務経費	47
3) 従事正職員の人件費(千円)	165	166	165			
総事業費(1~3の合計;千円)	3,210	3,215	1,452		H14主な特定財源の内訳	金額(千円)
総事業費中の一般財源(千円)	3,210	3,215	1,452			
市民一人当たり一般財源使用額(円)	58	58	26			
事務に従事した正職員のべ人数	0.02人	0.02人	0.02人			

4 事業活動の結果

事業活動の結果を示す指標	H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法
サンプル数(点)	目標値		700	699	水田・品種ごとのサンプル採取数 目標値はJAいしかりの事業計画により設定
	実績値		699		
	達成率		99.9%		
分析・指導対象面積(ha)	目標値		728	698	水稲作付け面積 目標値はJAいしかりの事業計画により設定
	実績値		712		
	達成率		97.8%		
分析・指導対象戸数(戸)	目標値		144	128	水稲作付け農家戸数 目標値はJAいしかりの事業計画により設定
	実績値		130		
	達成率		90.3%		

5 事業の成果

事業名：石狩産米高品質化推進補助事業

事業の成果を示す指標		H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	確認方法
推奨品種(ほしのゆめ)の平均タンパク値(%)	目標値			未設定	7.2	良食味米 = タンパク6.5%以下 目標はH15年度から設定	JAいしかりの実績報告により
	実績値			7.4	目標レベル		
	達成率						
	最終目標	平成16年度に		7.0%			
培養室素量が適正値であるサンプル数の割合(%)	目標値			未設定	70	水準値を満たしている点数/全点数 目標はH15年度から設定	JAいしかりの実績報告により
	実績値			55	目標レベル		
	達成率						
	最終目標	平成16年度に		80%			
培養室素量が適正値である農家数の割合(%)	目標値			未設定	60	水準値を満たしている戸数/全戸数 目標はH15年度から設定	JAいしかりの実績報告により
	実績値			49	目標レベル		
	達成率						
	最終目標	平成16年度に		70%			

6 事業の観点別評価

1) 事業活動の状況	【課長評価】	極めて良好	概ね良好	一部問題あり	大きな問題あり
【評価ポイント】 活動結果や活動効率、事業改善等の効果はどうだったか	土壌分析点数、対象面積、対象戸数については、ほぼ目標が達成されていることから、概ね良好と判断した。				
2) 有効性・必要性	【課長評価】	有効かつ必要	有効性に疑問あり	必要性に疑問あり	ともに疑問あり
【評価ポイント】 その事業は事業目的の達成に効果があるか、また、市民(対象者)に必要とされているか	国が策定した米政策改革大綱により「売れる米づくり」が求められていることから、土壌診断に基づく施肥改善指導は必要であるが、具体的な事業の成果はH15年度の実績を待たなければならないことから、そういった意味においては有効性に若干疑問がある。				
3) 市関与の妥当性	【課長評価】	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
【評価ポイント】 その事業に市が関与する必要があるか、市がどこまで関与するのが適当か	市が土壌分析費用の一部を補助し、培養室素の測定など土壌分析を行い、農業者の指導による施肥改善を誘導することは、米の食味向上のための施肥改善の定着までの間、一定の妥当性がある。				
4) 事業内容の妥当性	【課長評価】	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
【評価ポイント】 目指す成果を挙げるためには今の事業内容が適当か、受益と負担の関係に不公平はないか	土壌診断により施肥改善を誘導することについては極めて必要であるが、診断結果に基づく農業者の改善実施が確実に行われる体制を整備することが課題の一つと考える。 市の補助は当該事業費の2分の1としており、残りを農協と農業者が負担しているが、事業が定着するまでの市の負担割合は妥当と考える。				

7 平成14年度事業の総合評価

【評点の意味】 A: 極めて良好 B: 良好 C: 可も不可もない D: 問題がある E: 大きな問題がある	【課長評価】	B	【最終評価】	B (前年度)
	14年度から実施した事業であることから、直ちに米の食味向上や販売戦略にはつながらないが、対象水田や対象農家についてはほぼ実施したことから良好と判断した。		課長評価を了承する。	

8 今後の方向性・課題

担当課長評価	米の食味向上は、天候などにも左右されるため、年によっては確実に食味向上につながらない場合もあるが、土壌診断に基づく肥培管理や土壌管理は、今後特に米政策改革大綱による「売れる米づくり」を推進するためには必要であることから、栽培農家への指導の充実を図りながら、定着するまでの継続実施が必要である。
最終評価	良食味米生産に繋げるため農業者へ適切な指導により米の食味向上を図り米政策改革大綱による「売れる米づくり」を推進することが緊要であると思料する。

9 平成16年度の方向性

* 担当課長 最終評価	事業内容		
	現状維持	一部見直し	大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持	*	
	縮小方向		
	統合		
休・廃止			
上についての説明			

(付表)
補助・負担金等事業内容整理表

担当部課： 経済部農水産課
 事業名： 石狩産米高品質化推進補助事業

1 補助・負担相手方の概況

補助・負担金名称	石狩産米高品質化推進事業補助金
支出相手方(名称、代表者、構成員)	石狩市農業協同組合 代表理事組合長 伊藤 英雄 組合員数 正組合員 691名 准組合員 1,086名
活動(事業)目的	組合員(農業者等)が協同してその農業の生産能率を挙げ、経済状態を改善し、社会的地位を高める。

2 補助・負担相手方の財政状況等

(単位:千円)

		H12決算		H13決算		H14決算		H15予算	
		全体	補助対象	全体	補助対象	全体	補助対象	全体	補助対象
歳出決算 (予算)状況	石狩産米高品質化推進事業費	15,023	15,023	15,141	15,141	2,482	2,482	2,186	2,186
	歳出合計	15,023	15,023	15,141	15,141	2,482	2,482	2,186	2,186
歳入決算 (予算)状況	石狩産米高品質化推進事業補助金	3,000	20.0%	3,000	19.8%	1,240	50.0%	984	45.0%
	受益農家負担金	12,023	市の補助負担金への依存度	12,141	市の補助負担金への依存度	612	市の補助負担金への依存度	601	市の補助負担金への依存度
	農協負担金					630		601	
	歳入合計	15,023		15,141		2,482		2,186	
補助・負担対象経費の内容	水田土壌分析に係る経費(分析料・サンプル採取委託料・サンプル採取車借上料・サンプル機購入費・サンプル運賃) (H11～13は稲作農家の土壌改良材投入経費の一部に対し定額補助)								
補助・負担金額の算定方法	上記経費の1/2以内に相当する金額								

3 補助・負担相手方の活動状況

活動結果を示す指標名	H12実績	H13実績	H14実績	H15目標
分析点数(点) (再掲)			699	699
分析指導・対象面積(ha) (再掲)			712	698
分析指導・対象戸数(戸) (再掲)			130	128
平成14年度活動(事業)実績	各圃場の土壌中の培養室素量の測定と次年産に向け必要な施肥改善の分析・指導の実施			

4 特記事項

--